

教育課程編成委員会（分科会）言語聴覚士学科 議事録

1.日 時 令和4年12月3日(土) 13時30分～

2.場 所 ZOOMにて実施

3.スケジュール

13:00 受付／13:30～14:30 分科会

4. 参加者 言語聴覚士学科 専任教員 糸賀亜美

島根言語聴覚士協会 理事 西本祥久様

出雲市民リハビリテーション病院 景山洋一郎様

【議題1】令和4年度臨地・臨床実習実施報告

糸賀：コロナ感染拡大により実習施設が減少したため、実習期間8週から4週へ短縮（4週は学内実習へ）しました。実習施設は10カ所です。

評価については学外実習5割＋学内実習4割＋実習報告会1割で評価します。

西本様：現状から実習期間の短縮などはいたしかたないことだと思います。就職後の教育に重点を置くことが大事だと考えます。そのためには、積極的に地域の県士会に入会し、自身で勉強する機会を持つことが大切ではないかと考えます。

【議題2】最終学年の現状と取り組み

糸賀：実習前に実習前指導Ⅱ、会話演習を実施しました。

実習前指導Ⅱについて、会話演習の目的、実施計画について詳細に説明し、学生の演習振り返りシートも見ていただいた。患者様を紹介していただいた景山様に感謝の意を伝える。

【議題3】前回いただいたご意見とその後の対応について説明

- ・診療報酬についての知識を身に付けてほしい。
→国家試験後に講義を実施予定
- ・各職種の役割について知っておいてほしい。
→理学療法士学科とのコラボ授業で理学療法士の役割については学びました。また実習中に多職種の見学をしている学生もありました。
- ・社会人としての社会性、新人の役割、集団の中での役割を理解しておいてほしい。
積極性、自分の意見を述べられるようになっておいてほしい。自分の意見をまとめて他職種に伝える力が大事。
→実習オリエンテーションにて学生に伝達しました。

- ・患者さんの姿勢のサポート、移乗の知識、技術について学んでほしい
→学内実習において理学療法士学科とコラボ授業を行い、教えてもらう機会がありました。
- ・義歯に触れたことのない新人が多いので、触れる機会があると良い
→講義演習などは実施していませんが、実習中に触れた学生もありました。
- ・紙おむつ交換なども経験があると良いのでは。
→実施できていません。卒業前におむつを見る機会だけでも設ける予定です。。
- ・知識量や頭の良さよりも「やる気」が一番大事だと思う。
→実習前のオリエンテーションで学生に伝達しました。

景山様：就職前の指導として、国試後も臨床に向けて勉強をしっかりしてほしいと思います。

西本様：学科が閉科となった後、学生の就職後のフォローなどはどうなりますか？

糸 賀：来年度も引き続きフォローできる体制があることを伝える。学科またはキャリアセンターもフォロー可能です。今年度が最終学年であり、全員合格を目指しています。既卒生4名についても全員合格できるよう学科としてサポートしていく所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

日時：令和4年12月22日（木）12:00～13:00

場所：出雲医療看護専門学校 1F 会議室からの ZOOM 配信

委員：福田 淳、石田 修平、高田 秀志、太田 珠代（書記）

【議 題】

1. 令和4年度臨床実習報告
2. カリキュラム内容についての意見交換

（情報）

令和4年度 理学療法士学科の学生数

1年生 34名（入学時35名、退学1名）

2年生 39名（進級時39名、長期欠席2名）

3年生 20名（進級時19名、原級留置学生1名、退学1名）

実習形態

- | | | |
|--------------|------------|------------|
| 1. 見学実習 | 1年生 11～12月 | 1単位（45時間） |
| 2. 地域理学療法学実習 | 2年生 7月 | 1単位（45時間） |
| 3. 評価実習 | 2年生 1～2月 | 4単位（180時間） |
| 4. 総合臨床実習Ⅰ | 3年生 5～7月 | 7単位（315時間） |
| 5. 総合臨床実習Ⅱ | 3年生 7～9月 | 7単位（315時間） |

学内実習

- ・7～9月 総合臨床実習Ⅱ 6週間を学内実習に切り替え
- ・11～12月 見学実習 コロナ陽性・濃厚接触の学生は、学内実習に切り替え

【議事録】

1. 令和4年度臨床実習報告（高田）

高田）資料を元に説明

課題）・コロナにより実習経験値が達成できてない

- ・学内実習のやり方が確率できてない

石田）学内実習はどんな事が行われているのか。

→高田）総合臨床実習Ⅱ ペーパーペイシェント（紙ベース）

動画や体験が不十分となる。

石田）学生時代 — 外部の人に模擬患者としてコミュニケーションをとっていた記憶がある。今でも覚えているので、勉強になったと感じている。

高田) 評価実習で評価の技術を身に着けるのは悩んでいる部分ではある

福田) 実習の代替えは難しい。実習に変われるかは不明。マイナスとなるのは当然かもしれない。

実習に行けてではないが、「こういうのはできています」「他の強みを伸ばしました」という経験が必要ではないか。

学生は「時間」は大量にある。時間を何に向ける？という視点も大切。

例) 実習にいけない分、学力はあげました。

学生が自身を持って、社会にでれるようにする。数値的な視点も必要。

→高田) 実習でしか経験できない。雰囲気、空気、態度面は実習でしか経験できない。そこを経験したい。

高田) 普段では実習クリアできない学生も、学内実習では通過できてしまう。というのは いかかなものか。だが、実習は落とすものではないので、悩みどころである。

→福田) バイトしているか？と、確認するが。社会経験がない。

オンラインサロンなどで、社会とつながることも必要。

高田) 社会のつながりはつくりたい。

臨床の先生に来て頂き、話をしてもらいたい。(次年度以降検討している)

2. カリキュラム内容についての意見交換

・どの科目があるといいのか。

福田) 主体的になるような授業を展開したい。1人1人が主体的になるように。

オンラインサロンは時間的な制約もない。少人数グループがあるオンラインサロンが有効ではないか。

物理的な所で今までできなかったことから、呼ぶことは可能ではないか。著名な先生方の勉強会やオンラインサロンに団体として参加するのも大切ではないか。

石田) 情報は学校で習わなくても、確保できる。学校で勉強会への参加を推奨して、学生は参加したのをまとめて発表する。自分で参加して、発表すると良いのではないか。

3. 本校の設立経緯から出雲市に貢献について

・学生と出雲市への貢献の仕方

福田) 有償ボランティア ー 高齢者に対して、学生に責任を持たせることも大切。

石田) 島根県理学療法士会にビジョン推進委員会に学生に入ってもらったら。島根県理学療法士会に貢献できるのではないか。

スポーツ関連であれば学生から団体に所属できるのではないか。

学生だからといって無償ではなく、対価をもらっても良いのではないか。

高田) 「有償」では奨学金をもらっている学生もいるので、ありがたい。だが、お金がメインになるのではないかというのが不安な要素ではある。

「地域貢献」という視点での検討も必要だと考えている。

石田) ビジョン推進委員会では、学生からの意見を求められている。立候補という形で参加ができる。

4. その他

福田) 学生は YouTube する学生はいるのか。

→太田) Instagram ライブ、ティックトックで情報発信をする。

福田) せっかくであれば、動画で外部とつながりをつくっても良いのではないか。

高田) 実際、コロナの状況は先生方の職場ではどのような対応、どのような影響を出しているのか。

石田) 職場では、陽性者・濃厚接触者では自宅待機が多い。業務は通常通り。

福田) デイケアでは休業している（全体的な検査のために）。職員が 5 人が自宅待機になることがあった。

休業の指示は行政からの指示が多い。職員が少ない場合、縮小という形をとる。

休業中の手当はない。（行政より）

高田) 貴重な意見感謝しています。年に 2 回の教育課程編成委員会のため次回もまた案内を出しますので、今後ともよろしくお願いいたします。

13 : 00 終了

臨床工学技士学科

令和4年度教育課程編成委員会 臨床工学分科会

日時：令和4年12月3日（土）13:30～15:00

場所：出雲医療看護専門学校 101 教室

参加者：（遠隔）福田 勇司（島根県臨床工学技士会会長）

明穂 一広（島根大学医学部附属病院 ME センター技士長）

加藤 智久（出雲医療看護専門学校臨床工学技士学科学科長）

中山 弘幸（出雲医療看護専門学校臨床工学技士学科副学科長）

遠隔ツール：ZOOM

<https://zoom.us/j/9782424893?pwd=S3l4SVdPK1JoVm1aV2g4VG54azdpdz09>

ミーティング ID: 978 242 4893 パスコード: 123123

議事進行：加藤 智久

【議題】

1、臨床実習について

加藤：3年生の臨床実習が6月で終了し、国家試験に向けて尽力している。例年の臨床実習や他校の学生と比較して今年の学生はどうだったか。

明穂：知識の学生がいたが実習で伸びた学生がいた。しかし、怠惰する学生もいたと感じる。

専門学校生を見て知識量が足りない部分がある。

もう少し頑張って教えていただければと考えている。大学生であろうが専門学校生であろうが知識を持ってもらわないといけないと考える。臨床実習に耐えうる知識を付けてほしいと思う。

福田：実習生が目的を明確化していないと実習ができない。明確になっていないと有意義な実習ができない。

学校として前年度からの引き継ぎをしてレベルアップしていただいたい。

レポートの書き方について物事を順序だてて報告する第一歩と考える。事前に学習できるようにしていきたい。ある程度学校としての方針を提示してマッチさせていきたい。

加藤：知識量に関しては第2種 ME 技術実力検定試験が目安になると思うが、今年の学生は1名を除くと税員合格した。どの部分の知識が不足しているのか。

明穂：まず質問しても返ってこない。国家試験レベルを求めている。途中から伸びていく学生もいるため全てではないが基礎レベルを上げてもらいたい。

福田：教員が学生の時はどうだったか等を振り返って学生を見てもよいのではないかと感じる。興味のある分野は成長して興味のない分野は答えることができない。知識にムラがあるのではと感じる。

明穂：他病院から就職を見据えて実習を行っていないのではと感じる。学生は実習も就職につながることを意識しておらず今後の人生につながっていく危機感がない。

中山：学校側として適している適していないなどを判断して臨床実習に出している。それぞれの病院のシステムを把握しているわけではないため病院と学校で連携をとっていかなければならない。大学でもなかなか募集定員に到達していないので専門学校で募集を募ってもなかなか専攻ができ

ない。

加藤：我々が臨床実習を行っているときはどうだったか。今の学生と何が違うのか。

福田：実習生が悪いと実習が次年度受け入れしてもらえないので、できる学生とできない学生を織り交ぜて実習に行っていた。実習先から質問が答えられる範囲まで勉強をカバーしていた。わからなければレポートに調べて書くなどをしていた。臨床実習を行う姿勢が違うのではないか。

明穂：自分は専攻科のため、がむしゃらにやっていた。検査技師の学校へも行っていたがそちらはほとんど勉強しなかった。

ただ、今の学生にはレポートは重要視している。自分たちと比べてというよりも例年と比べてどうかなどで判断している。態度が重要と考える。やる気がなければ立たせておいてもよいと感じている。

福田：去年よりも印象がよくないと改善が見られない。学校で振り返りの改善を見せてほしい。

明穂：大学生は知識がある学生が多いため、どんどん教えていくが、専門学校生は知識量がないため実習についてこれない。

福田：病院と学校との学生の情報共有を行っていけばもっとよくなるのではと感じる。

大学と専門学校の知識の差というよりは個人の差ではないかと感じる。受け入れ側と送り出す側が綿密に情報共有されるとより改善していくのではないかと思う。

中山：学生の知識はどのくらい求めているかということで明穂氏は国家試験レベルと感じているが、評価いただいた学生に関しては国試レベルではなくむしろ苦戦している学生である。。取り組み方の姿勢ではないかと考える。

明穂：やはり知識量ではなく学びたいという思いや返事などの態度であると考える。

2、新カリキュラムについて

加藤：令和5年度より指定規則改正により新カリキュラムを作成しなければならない。本校として基礎科目を減少させ、専門科目を増加した。さらに2年生までの授業数を増やし、3年生の臨床実習や国家試験対策に尽力するようなカリキュラムを作成した。

明穂：非常によい取り組みだと考える。臨床実習に向けて知識を蓄えることは賛成である。

現在、外部講師に現場の臨床工学技士はいるのか。現場とのイメージが薄すぎて学生が理解しにくいのではないか。現場の現状を1,2年次に取り入れることが大事ではないか。

加藤：授業として担当している臨床工学技士はいない。今後検討させていただく。

福田：早めに臨床現場を知ることが大事と考える。学校の特色を出すことも重要である。他校に負けない特色が必要である。学生の背景や地域差もあるため出雲独自で出していく必要がある。経営を考えると人数確保が必要であるが、方向性を変えていくことで伸びていくと考える。

出雲医療看護専門学校の特色は何か。海外研修は必要ないのではないか。

中山：海外研修は教育理念の一つの国際教育に入っているため除外はできない。

福田：1年生の時から病院見学を入れ、意識づけるのも特色の一つだと考える。

明穂：この学校には立て直して残ってもらいたい。

福田：学生集めや教育などに協力ができることがあれば臨床工学技士会としてもバックアップしていく。

- 1.日 時 令和4年12月8日(金) 16時30分～18時00分
- 2.場 所 副学校長室
- 3.分科会 出席者：田中看護部長、神田副学校長、落合教務部長、鎌田学科長、堀内副学科長
ZOOM：原看護協会理事
司会進行：落合 書記：堀内

議事

- 1) 令和4年度臨地実習実施報告（鎌田学科長）
- 2) 新カリキュラム実施後の現状と問題点（鎌田学科長） 資料参照

1.【実習について】

〈学校より〉

・すべてが病院実習できたわけではない。実習要項の充実とともに、急な変更に対応できるような準備が必要

『実習がままならない状況で就職しているが、病院では実際どうなのか』

〈田中看護部長〉

・実践能力に関しては特に差がないとの報告があり、コミュニケーション能力についても特に差はないように感じる。

『病院として要望があるのか。特に学内実習について』

・患者さんの観察に関しては特に感じないが、院内研修でお互いの採血をするのにすごく躊躇されることがある。採血や注射などの技術については学内でもできるのではないかな。

・シミュレーターも進化しているが、シミュレーターでさえ躊躇する部分があるので、ここは学校でも経験できるのではないかな。

・大学のシミュレーターを借りることができるのか。→料金はかかる。国から補助金でもあればいいが・・・。

・シミュレーション教育をもっととりいれて学内実習を充実させる必要がある。

『連盟の新人の研修に関するサポートは？』

〈原理事〉

・現在意見、情報を集めている状況である。県、私学から補助金のことは来ているが本校あてはまらないと思われる。

2.【シミュレーション教育について】

〈神田副校長〉

・針を刺すという行為→看護師の独占業務を学生がどこまで理解しているのか。行為の意味を学内でしっかり学習させる必要がある。

・看護技術の基本：床上排泄の援助等・・・なぜそうするのかという落とし込みがない

・看護技術の入り口の部分を学校教育で押さえる。(根拠等を知る)

・侵襲の低いものでさえできないのに、侵襲の高いものができるのか。基礎教育の大切さ。

〈原理事〉

・静脈注射の研修 再教育 H14年から開始、再教育のための動画を作成(看護協会)

・基礎教育の不足の部分の補足・・・コロナ禍であるがたくさんの人に研修を受けてもらっている。

・病院、新人の全調査の結果 → 横のつながり、人とうまく話すことができないなどの特徴があり、臨床心理士によるメンタルサポートや研修を実施し、新人同士の交流(自分だけではなかったという思い)を図っている。

〈落合教務部長〉

・看護記録の書き方(医療安全管理者研修)に参加させてもらい学びが多かった。現場の人の生の声を学生にも聞かせてやりたい。

〈田中看護部長〉

医学生の例(聴診をするときに服を脱がせるというのはどうなのか)という意見をもつ学生

人にはするのに自分はいやだという葛藤 学生に対するインフォームドセントは大切

きちんと診察はできないということだが自分を守るとことのほうが優先してしまう

〈神田副校長〉

・看護師、教員の研修に学生も参加すべき

・教員自身が現状を理解しないと指導ができないので教員の学びも必要と考える。

3. 【新カリキュラムについて】

・地域・在宅の領域が手厚くなっており、領域をまたいだ科目(生まれてから死ぬまで)も新たにできている。

・看護過程は学内で、病院では病院での看護、疾患の治療の実際を知るというふうに教育の在り方も変化してきている。

・新カリキュラムでは看護過程はそこまで重要視しないという風にシフトチェンジしている。

・看護過程：現場で実施するのは難しい。ペーパーペイシエントで十分実施可能と考える。

・現場、指導者になかなか新カリキュラム、実習の在り方を伝えきれない。実習も変化してきており、実習の現場(病院)も教育の現場を知る必要があるのではないか。

・病院、学校との相互理解が必要⇒いろいろな実習施設があり現場も混乱しているかもしれない。

『実習指導者の研修→新カリキュラムに対する反応はどうか?』

- ・教育担当者、カリキュラム、若者像・・・研修のはじめのほうで押さえるようにしている。学校との話合いのなかで指導者がおさえているのでは。

- ・現場の看護師も看護過程は十分にはできていない。新卒のほうがかちんと思考ができています。看護記録は効率を重視しており、テンプレート活用する場も多い。必要な記録の中で看護過程をどう展開していくのが課題になると思う。

〈原理事〉

- ・患者の状況がすべての職種がわかる、全員がすべての記録が見れるという即時性がテンプレート活用にはあるが、情報の活用がうまく看護過程の展開にはいっていかばよいと思う。

〈田中看護部長〉

- ・たくさんの実習校がきており混乱することはないのか⇒特に意識はしていない 差はない

- ・新カリキュラムで実施時間も様々になってきている。学校で方針も違う。本校はどういうところに焦点を当てていけばよいのか。

- ・新カリ、旧カリが並行して実施、教員のライフワークバランス、現場は混沌としている

- ・学校と病院が話し合いを持ちながらやっていければいいが・・・。

- ・母性の領域では、新カリではものすごく変化をさせた部分はないがよりわかりやすい表現を目指した。実習でも学内で知識、技術をきちんと確認し学習、演習を実施したあと実習に行くようにしている。

- ・臨床現場に即した看護師の育成を目指している。